

月刊西谷会計

平成29年7月号



【薬剤師 夏子の部屋～朝顔の栽培～】

今年の梅雨は雨が少ないですね、今のところ。水不足にならないか心配です。こんにちは、夏子です。

今年、我が家では新しい試みをしています、、、「プランター栽培、はじめました。」

初心者ですのでまずは小学校の時一番初めにみんなで育てた朝顔を植えてみることにしました。他にはちょっとチャレンジして紫蘇もやってみることにしました。プランターに鉢底石を入れて土を買ってきて入れて、種を蒔く、そして水をあげる。これで良いだろうなとは思ったのですが、種の入っている袋に書いてある説明を読んでも、何と、書いてある事の意味が分かりません～！

浅箱にバラまき、ポットまき、コンテナへの直まき、植え付け等等種まきのところだけでも用語が???です。「朝顔ってこんなに難しかったっけー?」、、、、少々パニックです。

それでも今年はやると決めています。朝顔の観察がしたい気持ちは揺るがないのです。

こんな時真面目な小心者でド素人の私は書物に頼ります。「はじめての園芸シリーズ」の中から4冊もの本を購入して勉強してから植える事にしました。

読んでみた・・・知らない用語が増えました。ピートバン、覆土、移植、ますます難しくなりました。

と、とりあえずホームセンターで何となく必要そうな物を物色しに行きました。でも何処に売っているのか分かりません、そもそも何を買おうとしているのか自分でも分からないのです。あっちに行ったり、こっちに行ったり、中に入ったり、外に行ったり。2時間位は頑張ったと思います。ヘトヘトでした。

今思うと、本物の農家の方々が見る様な売り場へ遠征していたんだ、って思います。私達が見ていたところは空いていましたもの。

で、なんだかんだ右往左往したもの種まきをして一ヶ月位過ぎた今では、毎日紫蘇を収穫しています！朝顔はつるをくるくるさせて巻き付いています。

ほっとしています、苦勞して良かった、毎日見るのが楽しみです。でも本なんて読まなくても、栄養のある良い土をたっぷり入れて太陽にたっぷり当てて、水を適度にかけて上げる事が大事だったんだよ、多分ね。



【所長の本棚より～人工知能は人間を超えるか～】

今月の一冊は「人工知能は人間を超えるか」、人工知能を専門に研究している松尾豊氏の著書です。ここ数年、人工知能(AI)の発展については目を見張るものがあり、1997年にはIBMの開発したディープブルーがチェスで、2012年には将棋ソフトが将棋で、そして2017年にはグーグルのALPHAGOが囲碁で人間に勝利したのは記憶に新しいところです。オックスフォード大学で人工知能を研究するオズボーン教授が、人工知能の進化により、あと10年で消える職業を予測したり、ホーキンス博士が「人工知能の進化は人類の終焉を意味する」と発言したり、2045年には人工知能が人類の知性を超える技術的特異点(シンギュラリティ)に達すると予測があったりと、人工知能を取り巻く話題は事欠きません。本書は、そのような人工知能が本当に人類を脅かすものなのかどうかを、専門家の視点から説明するものです。

人間の脳は電気回路ですから、同じく電気回路であるコンピュータが人間の脳と同じ役割を担うことは理論上可能だというのが人工知能です。ところが、今のところコンピュータは、人間のように「概念」や「意味」を理解することまでは達していないようです。例えば、シマウマを見たことのない人にシマウマとは「シマのあるウマ」と説明すると、その人は本物のシマウマを見たときに「あれがシマウマかもしれない」と認識できますが、コンピュータは「シマ」の意味も「ウマ」の意味も分からないのでシマウマを見ても「これがシマウマか」と認識する、結びつけることができないようです。

この「意味」や「概念」を理解するためには「常識」が必要なのだそうで、人間には目が二つあるとか、靴は両方同じものを履くとか、馬にはタテガミがあるとか、蹄があつてヒヒンとなくという「常識」をそれぞれ一つ一つコンピュータに教えないといけないようです。実は、人間の持つ常識のすべてをコンピュータに入力しようとプロジェクトが1984年にスタートしています。そのプロジェクトは30年以上経過したいまでも続いているとか。つまり人間の持つ常識は書いても書いてもキリがないのだそうです。

ここまで読むと、どうやら人工知能というのは世の中が騒いでいるだけの様な感じもします。ゲームとかシミュレーション、検索や画像認識など一定の範囲では十分に役に立ちますが、人間の代わりに思考する域には達しないという印象です。ああ、よかった、よかった。この職業でご飯が食べていけそうだと安心したところでしたが、本書を読み進めていくと、どうやら最近登場した「ディープラーニング」がコンピュータに「概念」の取得を可能にするかもしれないのだとか。本を読んでも私には、その仕組みは到底理解できませんでしたが、ものごとの特徴を理解することはこれまでの人工知能の限界を突破する出来事のようにです。ディープラーニングの先にあるものはシンギュラリティ、人工知能が人間の知能を超える日です。まだまだこれからの分野のようですが、やはり2045年以降には世界ががらりと変わるのかも知れません。



【所長のつぶやき～秋葉原の繁盛店～】

本日経営合理化協会という団体があつて、年に二回、東京のパレスホテルで三日間に渡る研修会があつて、全国から何百人もの中小企業の経営者が集まります。上場企業の経営者から昨今話題の経営者、著名な経済評論家など、その道の一流の人を講師にお招きしての研修会です。講演テープや関連書籍はこれまでも利用していましたが、昨年からは研修会に参加するようになりました。お金がかかることに加え、まとまった時間も拘束されるものですから、申し込むには勇気が入りましたが、とてもためになり刺激にもなるので継続して参加しています。青森市からは西谷会計1社、弘前市と八戸市からも各1社が参加しているようです。

さて、半年に一度のこの研修会は一人数でも出張なものですから、羽を伸ばすには気持ちの良い機会でもあります。当初はAKBシアターに足を運ぼうと考えていましたが、何年か前から当日券の販売は行っていないのだそうで、次回に持ち越しとなりました。

秋葉原で見つけた面白いお店がありましたので紹介です。コインロッカーくらいの大きさの透明なケースが店の奥までズラッと綺麗に並べて置いてあつて、それぞれのケースには番号が振ってあつて、中にはフィギュアを飾っています。どうもフィギュアの製作者がケースを間借りして自作のフィギュアを販売しているようです。撮影厳禁だったので写真がないのが残念ですが、たくさんのお客さん、それもほぼ全員が外国人観光客で溢れているのにはびっくりしてしまいました。日本のフィギュアは人気があるのでしょうか。



安心がここにある。
西谷俊広 税理士事務所

〒030-0821 青森市勝田二丁目6-18
TEL:017-774-2315 FAX:017-774-1765

西谷会計 青森市 検索